

水稻の高温障害対策

高温障害が発生する要因

近年、西日本を中心に収穫期の高温により、玄米品質の低下や、小米が多くなる障害が発生し管内でも問題となつていきます。稲が収穫期に高温に遭遇すると、玄米が白く濁って見える乳白粒が多く発生し、等級落ちの原因になります。

今年は、稲の根張りを良くし穂肥の吸収力を高め、**粒張りのあるお米**を作りましょう。



対策

土づくり

ポイント①

▼有機物や土壌改良資材を施用し、**深耕**（15cm程度）しましょう。

田植え

ポイント②

▼なるべく田植え時期を遅くしましょう。また、1株の植え付け本数は**3〜4本**にし、**深さ2〜3cmの浅植え**にする。

けい酸資材の投入と効果

▼水稻におけるけい酸の役割は、受光体制の改善、光合成速度の向上、蒸散量上昇に伴うクーラー効果などがあります。

▼けい酸は用水や稲わらなどからも補給されますが、それだけでは十分と言えず積極的な資材の投入が必要になります。

▼土壌改良資材（とれ太郎・ケイカルなど）を施用していない場合は、けい酸加里を**中干し前**に施用して下さい。



使い方	施肥量
中間施肥 (出穂前45〜30日)	20〜40kg/10a
中山間部	キヌヒカリ 6月中旬
平坦部	ヒノヒカリ 7月中旬

米の栽培記録簿は
正しく記帳し、出荷の1週間前までに
提出して下さい。



JA OSAKA-HOKUBU®

◆詳しくは各購買店舗または能勢営農経済センターでお問い合わせ下さい。



中干しの適期

中干しの時期の目安		
中山間部	キヌヒカリ	6月中旬
平坦部	ヒノヒカリ	7月中旬

施用時期の目安		
中山間部	キヌヒカリ	7月上旬
平坦部	ヒノヒカリ	8月上旬

- ▼ 土壌中の有害物質を除去し、酸素を供給して根の活性を高める効果があります。そして根を作土の深くまで入れ、根量を多くします。
- ▼ 落水する事によって無効分けたつを抑え、有効茎歩合を高めて、太い丈夫な茎を作り、登熟を高めます。無効分けたつでの穂は小米になります。
- ▼ 田植え後30～35日を目安に中干しをしましょう。
- ▼ 中干しの程度は**田面にヒビ**が入り、足跡がついて歩ける程度にしましょう。
- ▼ 中干し後は2～3回走り水をして、その後間断灌水を行いましょう。
- ▼ 中干しを行うと、収穫期遅くまで水を貯めていても、落水すれば圃場が乾きやすくコンバインでの収穫作業もスムーズに行えます。

中干し

ポイント③

穂肥

ポイント④

- ▼ 出穂期に肥料不足になるともみが充実しません。生育状況・葉色・天候などによって施肥量を加減する。
- ▼ 出穂25日前を目安に施肥して下さい。遅れると食味低下につながります。

生育後期の水管理

ポイント⑤

- ▼ 穂ばらみ期から登熟期にかけては、水不足とならないよう管理する。
- ▼ 登熟期に、高温・熱帯夜が続く場合は**水のかけ**流しをして、田面の温度を下げましょう。
- ▼ 水稻は出穂をはじめ出てそろそろまでに1週間、次にもみが縦方向に伸びるのに1週間、さらに次の1週間でもみの幅ができ、次の1週間で厚みができるので合計30日間は水を保つ必要があります。
- ▼ 収穫作業の機械化に伴い落水が早まっていますが、落水が早すぎると根の活力を弱らせ、登熟不良、玄米のつや低下など品質が悪くなります。

早期落水厳禁

健康な土づくり5つのポイント



JA全農・農協

畑の土壌分析を してみませんか。

JA大阪北部では、8月に土壌分析を行います。土壌分析は土の健康診断です。
ぜひ一度JA大阪北部による土壌分析を行ってみて下さい。

- ◆対象者 組合員 (お一人様3圃場まで)
- ◆対象土壌 水田を除く農作農地全般 (水田については収穫後実施予定)
- ◆分析費用 無料
- ◆申込締切 平成26年7月18日(金)
- ◆申込先 各支店購買店舗及び能勢営農経済センター

